

FLORA KANAGAWA

Oct. 5. 2016 No.82

神奈川県植物誌調査会ニュース第 82 号

〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館内
神奈川県植物誌調査会

TEL 0465-21-1515 ・ FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp



図 1. フジチドリ (相模原市 2015.7.7 田村 淳撮影) .



図 2. ノビネチドリ (清川村 2016.6.11 谷脇 徹撮影) .

ラン 2 種が健在ーフジチドリとノビネチドリー (田村 淳)

2015 年から本格的に丹沢山地の高標高域で『神奈川県植物誌 2018』のための調査が始まり、その過程でいくつかの再発見があった。ここで報告するラン科植物のフジチドリとノビネチドリもその一例である。

フジチドリ *Gymnadenia fujisanensis* Sugim.

フジチドリは『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』(高桑ほか, 2006)に記載されているように、1966 年に採集された標本が県立生命の星・地球博物館に残されているのみで、その後の『神奈川県植物誌 1988』と『同 2001』の調査では発見されなかった。2015 年 8 月に勝山輝男

氏らと丹沢高標高域での調査に入った際に、枯死木の樹幹に着生したフジチドリらしきラン科植物を勝山氏が発見し、標本を採集した (KPM-NA0214167)。その際は開花していなかったため、次年度に開花個体を確認することとして、6月中旬頃に開花すると予想して計画を立てていた。しかし、勝山氏も筆者も今年(2016年)6月に現地に行くことはできなかった。その後、7月上旬に筆者がブナ林の更新調査に行った際、調査終了後の空き時間を利用して確認に行ったところ、運良く開花個体を確認できた。2個体が開花し、1個体はすでに果実となっていた。2015年の発見時に予想した開花時期は間違っていたのである。不幸中の幸いであった。

ノビネチドリ *Gymnadenia camtschatica* (Cham.)

Miyabe & Kudo

ノビネチドリも『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』(高桑ほか, 2006)に記載されているように、1957年に採集された標本が博物館に残されているのみで、その後2002年6月に筆者の調査に同行した高石幸恵さんが、丹沢山山頂付近のシカから植物を守る植生保護柵内で発見した。開花した1個体のみであった。この個体は2004年まで生育していたが、その後消失した。標本を採集しなかったので写真のみの記録であった。またいつか復活するだろうと考えていたところ、今年6月に筆者の同僚の谷脇徹氏がブナハバチの調査の際に、柵外で開花した1個体を発見した。その1週間後に筆者もその個体(果実をつけつつあった)を確認した。2002年の個体からは50m程度離れているため別個体であろう。なお、丹沢山のノビネチドリは1913年の『植物学雑誌』ですでに武田久吉により「丹澤山頂にはカリヤス多く、又ヤマトリカブトを見る、又稀にノビネチドリあり、この植物最南の産地なるべし」と記録されている(武田, 1913)。

丹沢ではブナ枯れやニホンジカの植生影響が生じているものの、この2種のように50年以上前に記録があった種が絶滅もせずに生育していたことは、丹沢の自然再生に明るい兆しがあることを示している。

引用文献

高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
武田久吉, 1913. 塔ヶ岳, 丹澤山附近ノ植物ニ就イテ. 植物学雑誌, 27(322), 468-469.

イネ科ニクキビモドキ属の不明植物

(勝山輝男)

『神奈川県植物分布図集 2016』(田中ほか, 2016)ができたが、その98頁にブラキリア・ラエタ *Brachiaria laeta* (Mez) A. Camus なる謎の植物の分布図が掲載されている。言い訳として、あわてて本報告を書くことにした。

昨年(2015年)の2月、厚木市郷土資料館で標本同定会を催された際、船木華子さんが座間市入谷で採集したイネ科の不明植物標本があった。全体の雰囲気は沖縄で牧草として利用され、逸出しているパラグラス *Urochloa mutica* (Forss.) T.Q.Ngyen; *Brachiaria mutica* (Forss.) Stapf に似ているが、小穂は幅が広く、第1苞穎が大きく、小穂の1/3~1/2の大きさがあつた。以下にその際の標本(KPM-NA0214054)を元に形態を記す。

標本は稈の上部のみで高さは不明(70cm以上)、節には微細な毛が密生。葉は長さ10-20cm、幅約2cm、先は尖り、基部は切形またはやや心形、両面とも無毛、縁はざらつく程度で毛列はなく、鞘部は無毛、葉舌は長さ1.5mmほどの毛列。花序は中軸が発達し、長さ17cm、幅5-6cm、中軸は稜上に微細な刺毛と、ときに基部の膨れた白色長毛が生える。総は1節に1-4個、計25個ほどがつき、長さ2-5cm、中軸は断面が三角形で、稜上には微細な刺毛と白色長毛が生える。小穂は多少は柄があり、総の中部につくものは短柄小穂と長柄小穂が組をつくり、楕円形で先は尖り、長さ約3mm、幅約2mm、無毛。第1苞穎は長さ約1mmで3脈、第2苞穎は小穂と同長で7脈、第1小花(不稔)の護穎は5脈、第2小花の護穎は硬い。

Urochloa (ニクキビモドキ) 属の植物は種によって *Brachiaria* (ピロードキビ) 属と *Urochloa* 属に分けられたり、広義 *Brachiaria* 属にまとめられたりしてその所属が文献により異なっていたが、最近のDNAを用いた系統解析により、全体として単系統としてまとまる事が明らかになり、*Urochloa* 属に合一されることとなった(Gonzalez and Morton, 2005)。『神奈川県植物誌 2001』では *Brachiaria* 属として扱われ、北アメリカ原産のメリケンニクキビ *U. platyphylla* (Munro ex Wright) R.D.Webster; *B. platyphylla* (Munro ex Wright) Nash の1種のみが記録されている。沖縄にはパラグラスのほか、ニクキビ *U. subquadripara* (Trin.) R.D.Webster; *B. subquadripara* (Trin.) Hitchcock、ピロードキビ *U. villosa* (Lam.) T.Q.Ngyen; *B. villosa* (Lam.) A. Camus、ニクキビモドキ *U. paspaloides*

J.Presl; *B. paspaloides* (J.Presl) C.E.Hubbard, がある。

問題のイネ科植物は *Urochloa* 属 (*Brachiaria* 属) であることは間違いないが、日本に記録のあるものでは思いつくものがなかったので、宿題として調べることにして、標本を1点持ち帰った。手元にある海外の植物誌で *Urochloa* 属または *Brachiaria* 属を調べたところ、Basel & Berlin (1981) に掲載されているアフリカ原産の *U. lata* C.E.Hubb.; *B. lata* (Schumach.) C.E.Hubb. に似ていると思われた。採集された船木華子さんにメールでお知らせしたが、その際、スペルを“*Brachiaria laeta*”と誤記したため、仮の分布図集ではブラキリア・ラエタなる謎の植物が掲載されてしまった。

その後、文献を調べ直したところ、Clayton (1972) によると、*U. lata* の葉は縁に基部が膨れた毛が列生すること、小穂にほとんど柄がないことから、座間市の植物とは異なることが判明した。また、Clayton (1972) の検索表では *U. ramosa* (L.) T.Q.Nguyen; *B. ramosa* (L.) Stapf によくあてはまった。しかし、*U. ramosa* の総の数 は Barkworth (2003) では 3 ~ 15 個、Chen Shoulian and Sylvia Phillips (2006) では 3 ~ 6 個と座間市の植物よりも少なく、ピタリとはあわない。ということで、結局、座間市の植物の正体は判明していない。

標本：座間市入谷2丁目 船木華子 2014.11.5
KPM-NA0214054.

引用文献

- Barkworth, M. E., 2003. *Urochloa*. Flora of North America Editorial Committee ed., Flora of North America, North Mexico. Vol.25. pp.492-507. Oxford Univ. Press, New York.
- Basel, E. H. and H. S. Berlin, 1981. Grass Weeds 2. 137pp.+22pls. CIBA-GEIGY, Switzerland.
- Chen Shoulian and Sylvia M. Phillips, 2006. *Brachiaria*. Flora of China. Vol.22. pp.520-523. Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- Chen Shoulian and Sylvia M. Phillips, 2006. *Urochloa*. Flora of China. Vol.22. pp.523-524. Missouri Botanical Garden Press, St. Louis.
- Clayton, W. D., 1972. Gramineae. Flora of West Tropical Africa. Vol. III Part.2. pp.349-512. Crown Agents for Oversea Governments and Administrations, Sutton.
- Gonzalez, A. M. T. and C. M. Morton, 2005. Molecular and morphological phylogenetic analysis of *Brachiaria* and *Urochloa* (Poaceae). Molecular Phylogenetics and Evolution, 37: 36-44.

田中徳久・勝山輝男・大西 亘, 2016. 神奈川県植物分布図集 2016 - 「神奈川県植物誌 2018」に向けて - . 375pp. 神奈川県植物誌調査会・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

ホワイトレースソウ（セリ科）の逸出

(大西 亘)

ホワイトレースソウ *Orlaya grandiflora* (L.) Hoffm. は、地中海地方原産のセリ科の一年草で「ホワイトレースフラワー」「オルレア (オルラヤ)」などの名称で園芸目的に販売・栽培されている。近年、近畿地方などで野生化しつつあるとの報告がインターネット掲示板や帰化植物 ML でなされ



図1. 花序の辺縁の花弁が著しく発達する (小田原市風祭 2016.5.24 大西 亘撮影) .



図2. 刺毛が発達した果実 (小田原市風祭 2016.6.3 大西 亘撮影) .

ていた。小田原市風祭の箱根登山鉄道の線路脇と、隣接する国道一号線の歩道の間隙に生育地を広げているのを確認したのでここに報告する。少なくとも見渡す範囲に植栽された状態のものではなく、逸出状態にあるものと考えられた。現在のところ限られた範囲に見られるのみだが、いずれも多数の果実を着けており、今後の状況を注視したい。

標本：小田原市風祭 大西 亘 2016.5.24 KPM-NA0286940.



図2. セッコク (山北町 2016.4.12 勝山輝男撮影)。

採集できなかったラン科植物 3 種の記録 (勝山輝男)

セッコク、ヒナチドリ、ツリシュスラン、フガクズムシなどの樹幹に着生するラン科植物や急峻な岩場に生えるナツエビネなどは、希少な植物のため、めったに出会うことがない。たとえ出会えたとしても、大木の高い所や近づくことのできない岩場に生えていて、採集することができないことが多い。2016年の丹沢での調査時に確認はしたが、標本を得ることができなかったヒナチドリ、セッコク、ナツエビネについて、記録にとどめるために写真をつけて報告しておく。

ヒナチドリ *Ponerorchis chidori* (Makino) Ohwi

2016年8月4日に YA-3 で確認し写真撮影した。距離が遠く、250mmの望遠レンズでもこの程度にしか撮影できなかった。ヒナチドリは1995年に世附川上流 (YA-1, KPM-NA0100311) で採集されているが、2016年5月に現地を訪ねたが、それらしい個体は再発見できなかった。2000年頃、丹沢をよく登山される方から、甲相国境尾根から望遠レンズで撮影されたヒナチドリの写真を見せていただいたことがある。丹沢では樹幹を注意して



図1. ヒナチドリ (山北町 2016.8.4 勝山輝男撮影)。

歩けば、もう少し見つかるかもしれない。『神奈川県 RDB2006』(高桑ほか編, 2006) では絶滅危惧 I A 類, 『国 RDB2014』(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015) では絶滅危惧 II 類。

セッコク *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

2016年4月12日に玄倉林道に近い尾根 (YA-6) で確認し写真撮影した。春先には発見しやすいが、この個体は、ほとんど葉を落としていて、写真としてはさびしい。玄倉川ではこれまでも確認報告はあるが、標本は採集されていない(勝山ほか, 2007)。また、2016年4月17日にも世附川大又沢フジモク沢 (YA-4) を調査した際に確認したが、写真撮影はしなかった。丹沢の最近の標本記録は1993年の世附織戸峠 (YA-4, KPM-NA1105471 ~ 2), 1999年の世附大又沢イデン沢 (YA-4, KPM-NA0117888) がある。また、2007年5月に丹沢湖東岸大杉山北側 (YA-6) で花期に写真撮影されている。『神奈川県 RDB2006』(高桑ほか編, 2006) では絶滅危惧 I B 類。

ナツエビネ *Calanthe puberula* Lindl.

YA-6の隣接する場所で2個体が確認されており、2016年7月26日現在、2個体とも花茎を伸ばし健在である。写真は2009年8月8日に藤井良造氏に案内していただいた際に撮影したものである。250mmの望遠レンズでかるうじて撮影できた。最近では1994年に世附水の木 (YA-4, KPM-NA0101619), 2004年に世附大又沢フジモク沢 (YA-4, KPM-NA0124052) で採集され、2008年には相模原市緑区の旧藤野町 (FUJ-1, KPM-NA0161503) で採集されている。溪谷の側壁で見ることが多い。『神奈川県 RDB2006』(高桑ほか編, 2006) では絶滅危惧 I A 類, 『国 RDB2014』(環境省自然環境局野生生物課希少種



図3. ナツエビネ (山北町 2009.8.4 勝山輝男撮影)。

保全推進室, 2015) では絶滅危惧Ⅱ類。

引用文献

- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015. レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物— 8. 植物Ⅰ (維管束植物). 16pls.+lxii+646pp. ぎょうせい, 東京.
- 勝山輝男・田村淳・田中徳久, 2007b. 維管束植物. 丹沢大山総合調査団 (編), 丹沢大山総合調査学術報告書, 丹沢大山動植物目録, pp.1-44. 平岡環境科学研究所, 相模原.

『神植誌 01』掲載分類群の分布情報の記述

(田中徳久)

新しい植物誌 (『神奈川県植物誌 2018』) の執筆をお引き受けいただいた皆様には, 現在, 各標本庫の標本の同定確認に奔走されているところと思われ, 編集委員の1人として, まずはお礼申し上げます. 今後, 原稿執筆をすすめる際には, 執筆要綱などを熟読いただくことはもちろんであるが, 『神植誌 01』では完全でなかった掲載種の分布情報について課題を整理したので, 参考にして,

補填いただけるようお願いしたい. なお, これらを完全にすることは困難であるが, より良いものにしたい, とまとめたものであるので, ご了承いただきたい.

『神植誌 01』に掲載されている分類群数

『神奈川県植物誌 2001』(神奈川県植物誌調査会編, 2001; 以下『神植誌 01』と略記)に見出しとして掲載されている分類群数は, 何度か修正され (『神植誌 01』の正誤表や田中 (2008)), 見出しとして掲載されているのは 3,436 分類群で, そこから雑種 178 分類群, 参考種 257 分類群を除いた 3,001 分類群のうち, 在来植物は 2,169 分類群, 帰化植物は 832 分類群とされている. しかし, その後, 『神植誌 01』の記述を精査した結果, 見出しとして掲載されているのは 3,427 分類群 (3,436 分類群から参考属として掲載されていた 9 分類群を除いた) であり, そこから雑種 178 分類群, 参考種 248 分類群 (257 分類群から参考属として掲載されていた 9 分類群を除いた) を除いた 3,001 分類群 (この数は同じ), 在来植物は 2,153 分類群, 帰化植物は 848 分類群 (国内帰化や在来種の植栽由来の逸出とされる 26 分類群を含む; これらや他の帰化種の計数の誤りから修正) であることが明らかになった (田中, 2015, 田中, 2016). これらの集計ミスは, すべて本稿の筆者がデータベースで算出, 計数した際に誤ったもので, このよう何度でも修正することは申し訳ない限りである. この修正に意味があるかは別にし, 準備中の新しい植物誌では, このようなことのないようにしたい.

分布情報の記載の現状,

『神植誌 01』の分布情報・原産地情報の記述には, 気候帯を示す「熱帯」「冷温帯」などが散見される. また, 国外での分布や原産地は, 特定の国名など狭い範囲の地域名が表記されている場合から大陸名などが表記されている場合などの不統一があった. 『神植誌 01』における掲載分類群の分布情報の記載数を図 1 に示した.

在来植物の分布情報の記述と固有種としての扱い

在来植物 2,153 分類群のうち, 63 分類群は, 分布情報の記述がない. また, 分布情報がある 2,090 分類群のうち, 日本国内の分布のみが記述されているものは 697 分類群であり, 国外の分布も記述されているのは, 1,393 分類群であった. これをそのまま捉えると, 697 分類群は日本固有となる. しかし, 加藤・海老原編 (2011) が固有種としているのは, 697 分類群のうち 439 分類群で, 258 分類群は取り上げられていない. これらについて

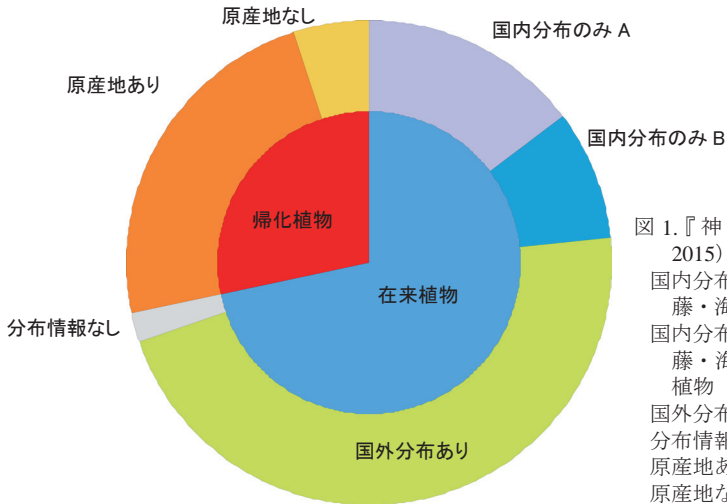


図1.『神植誌01』の分布情報の記述数(田中, 2015).

国内分布のみ A：国内の分布情報のみがあり，加藤・海老原編(2011)に掲載されている固有種
国内分布のみ B：国内の分布情報のみがあり，加藤・海老原編(2011)に掲載されていない在来植物

国外分布あり：国外の分布情報がある在来植物

分布情報なし：分布情報の記述がない在来植物

原産地あり：原産地の記述がある帰化植物

原産地なし：原産地の記述がない帰化植物

は，国外の産地を補填するなどの検討が必要である．逆に，加藤・海老原編（2011）が固有種としているナンゴクナライシダ *Leptorumohra fargesii* (H.Christ) Nakaike & A.Yamamoto, ミヤマイタチシダ *Dryopteris sabaiei* (Franch. & Sav.) C.Chr., スギ *Cryptomeria japonica* (Thunb. ex L.f.) D.Don, ミヤマナルコユリ *Polygonatum lasianthum* Maxim., キツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim. var. *sanguinea*, ワセオバナ *Saccharum spontaneum* L. var. *arenicola* (Ohwi) Ohwi, ヒメアオガヤツリ *Cyperus extremiorientalis* Ohwi, シラコスゲ *Carex rhizopoda* Maxim., ミヤマジュズスゲ *Carex dissitiflora* Franch., クロモジ *Lindera umbellata* Thunb., ヤマシャクヤク *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe & Takeda, モミジカラマツ *Trautvetteria carolinensis* (Walter) Vail var. *japonica* (Siebold & Zucc.) T.Shimizu, ウツギ *Deutzia crenata* Siebold & Zucc., ウワミズザクラ *Prunus grayana* Maxim., ヤマザクラ *Prunus jamasakura* Siebold ex Koidz., ナツトウダイ *Euphorbia sieboldiana* C.Morren & Decne., ヨコグラノキ *Berchemia berchemiifolia* (Makino) Koidz., クリンソウ *Primula japonica* A.Gray, コウヤボウキ *Pertya scandens* (Thunb.) Sch.Bip., ヤマノコギリソウ *Achillea alpina* L. subsp. *alpina* var. *discoidea* (Regel) Kitam. の 20 分類群は、『神植誌 01』に海外の分布の記載があり，検討を要する．しかし，これらの検討には，種や下位分類群の取り扱いの検証も必須である．

帰化植物の原産地情報の記述

帰化植物 848 分類群のうち，116 分類群は原産地情報の記述がない（他に原産地不明と記述されている 6 分類群がある）．

なお，帰化植物として扱った国内帰化あるいは国産種の植栽起源と思われる 26 分類のうち，ツクシスズメノカタビラ *Poa crassinervis* Honda, ナリヒラダケ *Semiarundinaria fastuosa* (Mitford) Makino var. *fastuosa*, クマザサ *Sasa veitchii* (Carrière) Rehder, ヤダケ *Pseudosasa japonica* (Siebold & Zucc.) Makino, リュウキュウチク *Pleioblastus linearis* (Hack.) Nakai, オオシマカンスゲ *Carex oshimensis* Nakai, ニッケイ *Cinnamomum okinawense* Hatus., オウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *japonica*, セリバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *dissecta* (Yatabe) Nakai, ヒメミヤマカラマツ *Thalictrum nakamurae* Koidz., サザンカ *Camellia sasanqua* Thunb., ヤマフジ *Wisteria brachybotrys* Siebold & Zucc., トウキ *Angelica acutiloba* (Siebold & Zucc.) Kitag., アオナリヒラ *Semiarundinaria fastuosa* (Mitford) Makino var. *viridis* Makino, イヌトクガワザサ *Sasa scytohylla* Koidz., マテバシイ *Lithocarpus edulis* (Makino) Nakai, オオシマザクラ *Prunus lannesiana* (Carrière) E.H.Wilson var. *speciosa* (Koidz.) Makino, サワオグルマ *Senecio pierotii* Miq. の 18 分類群は，加藤・海老原（2011）では固有種とされている．しかし，このことは特に問題のある内容ではない．

実際，植物誌の編集に取り掛かると余裕がない可能性があるが，編集委員会などでの検討を経て、『神奈川県植物誌 1988』（神奈川県植物誌調査会編，1988）や『神植誌 01』では記事のない，区系要素の統計なども掲載したいと考えており，ここで補填をお願いした内容は，その基礎となるものでもあり，勝手ではあるが，ご協力いただければ幸

いである。最後になりましたが、固有種のデータベースをご提供いただいた国立科学博物館の海老原 淳氏にお礼申し上げる。

なお、本稿の元になったデータは筆者の学位論文をまとめる際に精査したものである。

引用文献

神奈川県植物誌調査会（編），1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442pp. 神奈川県立博物館，横浜．
 神奈川県植物誌調査会（編），2001. 神奈川県植物誌 2001. 1582pp. 神奈川県立生命の星・地球博

物館，小田原．
 加藤雅啓・海老原 淳（編），2011. 日本の固有植物. xxi+503pp. 東海大学出版会，秦野．
 田中徳久，2008. 『神植誌 01』の「植物の種類数」の訂正. Flora Kanagawa, (66): 817.
 田中 徳久，2015. 標本データベースを活用した神奈川県の地域植物相の特徴と多様性. 130pp. 横浜国立大学大学院環境情報学府博士論文，横浜．
 田中徳久，2016. 神奈川県の帰化植物率の変遷と分布. 自然科学のとびら, 22: 12-13.

『神植誌 01』掲載分類群の科毎の組成

（田中徳久）

田中（2016）では、『神奈川県植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会編，2001；以下『神植誌 01』と略記）の各分類群の分布情報の記述状況について、現在、準備を進めている『神奈川県植物誌 2018』の記述をより良いものにするための資料として示した。また、田中（投稿中）は、帰化植物の原産地の割合を示したが、これも、新しい植物誌にこれまでなかった一項を加えるべき資料とするものである。ここでは、同様の目的で、『神植誌 01』に掲載されている分類群の科毎の組成を示した。

分類群全体の科毎の組成

『神植誌 01』の掲載分類群の科別の分類群数を図 1 に示した。掲載分類群を科別に捉えると 196 科になり、所属する分類群がもっとも多い科は、キク科で、281 分類群（9.4%）が属し、イネ科の 244 分類群（8.1%）、カヤツリグサ科の 186 分類群（6.2%）、マメ科の 114 分類群（3.8%）と続く（図 1）。

帰化植物の科毎の組成

『神植誌 01』の掲載分類群のうち、帰化植物の科別の分類群数を図 2 に示した。帰化植物が多い科は、キク科が 132 分類群（在来植物 149 分類群で 46.7%）、イネ科が 116 分類群（在来植物 128 分類群で 47.5%）、アブラナ科が 55 分類群（在来植物 25

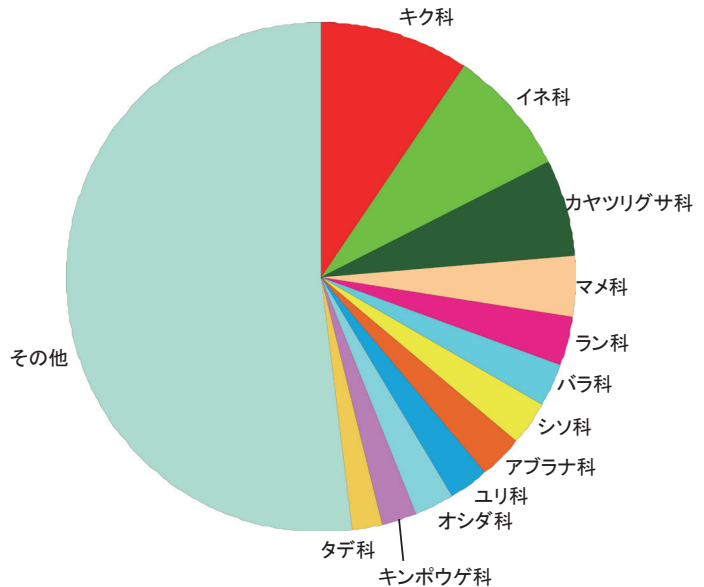


図 1. 『神奈川植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会編，2001）掲載分類群の科別の分類群数。

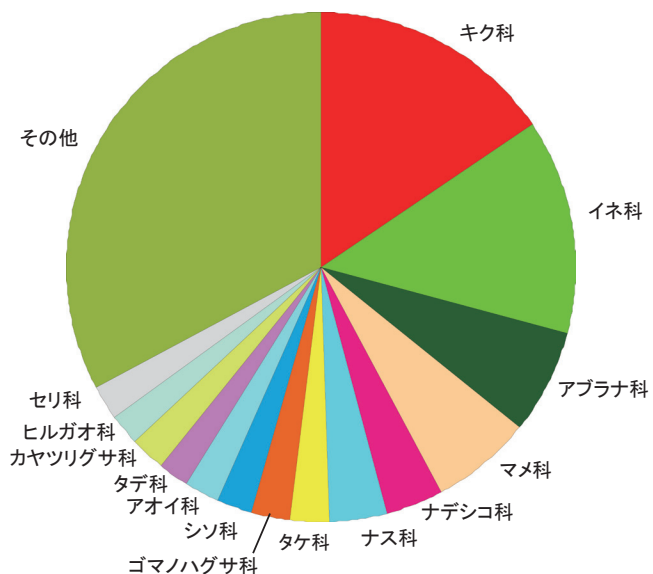


図 2. 『神奈川植物誌 2001』（神奈川県植物誌調査会編，2001）掲載分類群の科別の帰化植物の分類群数

分類群で 68.8%), マメ科が 54 分類群 (在来植物 60 分類群で 47.4%), ナデシコ科が 32 分類群 (在来植物 30 分類群で 61.5%) などとなる。前述のように、掲載分類群数が多かったのは、キク科、イネ科、カヤツリグサ科、マメ科、ラン科であったので、順位では、アブラナ科の帰化植物が多く、カヤツリグサ科やラン科の帰化植物は少ないと言える。清水・近田 (2003) は、キク科、イネ科、マメ科を“帰化植物三大科”としており、神奈川県でも同様の傾向がある。キク科の帰化植物は、園芸目的に導入されたものの逸出由来のものが多く、マメ科やイネ科の帰化植物は、牧草由来や緑化目的のものが多い。また、清水・近田 (2003) は、カヤツリグサ科やバラ科、ユリ科、ラン科、キンポウゲ科、セリ科、ツツジ科などの帰化植物は少ないとしているが、神奈川県では、カヤツリグサ科が 18 分類群 (在来植物 168 分類群で 9.7%), セリ科が 17 分類群 (在来植物 47 分類群で 29.8%) と、多い傾向がある。

科別に帰化率を算出すると、アオイ科の 94.7% (在来植物 1 分類群に対して帰化植物 18 分類群) がもっとも高く、ナス科の 75.0% (在来植物 10 分類群に対して帰化植物 30 分類群), カキノキ科の 75.0% (在来植物 1 分類群に対して帰化植物 3 分類群) となる。

なお、本稿の一部には、筆者の学位論文の記述を含んでいる。

引用文献

- 神奈川県植物誌調査会 (編), 2001. 神奈川県植物誌 2001. 1582pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 清水建美・近田文弘, 2003. 帰化植物とは. 清水建美 (編), 日本の帰化植物, pp.11-39. 平凡社, 東京.
- 田中 徳久, 2015. 標本データベースを活用した神奈川県の地域植物相の特徴と多様性. 130pp. 横浜国立大学大学院環境情報学府博士論文, 横浜.
- 田中徳久, 2016. 『神植誌 01』掲載分類群の分布情報の記述. FLORA KANAGAWA, (82): 983-985.
- 田中徳久, 投稿中. 神奈川県に産する帰化植物の原産地. 神奈川県自然誌資料.

西湘シダ勉強会 2015 年 9 月～2016 年 5 月の活動記録

(中山博子)

西湘シダ勉強会 (FK (79): 931-932) の 2015 年

1 月から 2016 年 5 月の活動を報告する。

調査日: 2015 年 1 月 20 日

調査地: 静岡県下田市爪木崎

参加者: 佐藤康案内・今井きみ子・金子龍次・関野祥子・長岡恂・中山博子・埜村恵美子・浜岡史子・和田良子 9 名

コース: 下田駅集合, バスで爪木崎グリーンエリア. グリーンエリア～爪木崎～細間の段～須崎.

概要: 海岸のシダ, ヒメハシゴシダとコハシゴシダの違いなどを勉強. 海岸植物を観察した.

調査日: 2015 年 3 月 17 日

調査地: 真鶴町岩 MAN

参加者: 伊藤晃逸・金子・佐々木シゲ子・佐藤・近田あき子・中山・浜岡・長岡・日置乃武子・松浦ヤチヨ・松岡輝宏・山本絢子・和田 13 名

コース: 車で岩沢橋～県道 740 号. 真鶴半島中川美術館前～内袋観音.

概要: 茶畑でギフベニシダ, 石垣でチャセンシダ・イワヒバ・マムシヤブソテツなど, 海岸ではヒメオニヤブソテツなどの新産を記録.

調査日: 2015 年 4 月 21 日

調査地: 小田原市久野, 塔ノ峰林道 OD-1

参加者: 伊藤・金子・佐藤・高田静子・近田・恒川礼子・長岡・中山・野辺陽子・松浦・松岡 11 名

コース: 県博前集合車で移動. 水之尾水源池～塔ノ峰林道ゲート～塔ノ峰林道～塔ノ峰～林道～ゲート.

概要: サイゴクイノデ・ハタジュクイノデ・ミヤコヤブソテツなどを記録した.

調査日: 2015 年 5 月 19 日

調査地: 小田原市石橋石橋海岸 OD-4, 久野和留沢 OD-1

参加者: 伊藤・佐藤・中山・野辺・松浦・松岡・和田 7 名

コース: 早川駅集合車で移動. 国道 1 号石橋～石橋海岸, 和留沢林道～キャンプ場～林道入口

概要: 石橋海岸でシマホタルブクロを記録. 雨の為和留沢に移動して和留沢林道を調査した.

調査日: 2015 年 6 月 16 日

調査地: 小田原市根府川白糸川河口, ヒルトンホテル内 OD-4

参加者: 佐藤・松岡・中山・恒川・浜岡史子・倉川典夫・佐々木シゲ子・和田・日置乃武子 9 名

コース: 根府川白糸川河口～なみのこ村, 根府川ヒルトンホテル～観察路.

概要: 根府川海岸の崖でアジサイの逸出やヒメオニヤブソテツ・スカシユリを記録.

調査日：2015年7月2日

調査地：小田原市入生田 OD-2

参加者：中山・松浦 2名

コース：県博裏の早川河岸

概要：アメリカオニアザミなど帰化植物を記録。

調査日：2015年7月21日

調査地：小田原市久野船原林道 OD-1

参加者：金子・倉川・近田・中山・野辺・松浦・松岡・和田 9名

コース：和留沢林道～船原林道。

概要：ヤマクルマバナ・ミサキカグマ・イワヘゴ・オオホソバシケンダ・ムサシケンダなどを記録した。

調査日：2015年7月24日

調査地：三国峠 YA-1, 明神峠 YA-4

参加者：松岡・和田・倉川・松浦・中山 5名

コース：三国峠～三国山～三国峠, 明神峠付近。

概要：ヤマタイミンガサなどの山の植物や山北では少ないコヒロハハナヤスリを記録。

調査日：2015年8月6日

調査地：山北町皆瀬川, 大野山 YA-8

参加者：松岡・佐藤・伊藤・野辺・中山 5名

コース：R246 大野山入口～深沢林道コース～大野山往復。

概要：カワラナデシコ・コマツナギ・アカショウマ・クルマバナ・コオニユリなど花々が開花。多くを記録した。

調査日：2015年8月18日

調査地：松田町寄 MAT

参加者：伊藤・金子・倉川・佐々木シ・佐藤・長岡・中山・野辺・浜岡・松浦・松岡・和田 13名

コース：寄大橋～水源の森林道往復, 寄大橋付近。

概要：林内は、鹿食害で植物少ないが、フシグロセンノウなどの林道脇に残るものを記録した。

調査日：2015年9月15日

調査地：山北町玄倉 YA-6

参加者：金子・倉川・佐々木シ・佐藤・長岡・中山・日置・松浦・和田 9名

コース：旧丹沢湖ビジターセンター～旧薬草園。

概要：鹿の食害ひどいが、メイゲツソウや河原のタイアザミ・コボタンヅル・路傍の帰化植物などを記録した。

調査日：2015年10月20日

調査地：山北町西丹沢自然教室付近 YA-5・YA-6

参加者：金子・佐藤・長岡・中山・野辺・浜岡・日置・松浦・松岡・和田 10名

コース：西丹沢自然教室～白石沢左岸。

概要：地元の方からの情報を得て、ベニシュラン・ウメガサソウ・ダイヤモンドソウ・イワシャジンなどを記録。

調査日：2015年11月17日

調査地：山北町世附 YA-5

参加者：佐藤・松岡・中山・伊藤・金子・佐々木シ・近田・長岡・日置・松浦・和田・浜岡 12名

コース：浅瀬～大又沢, 丹沢湖畔。

概要：トキワトラノオ・アイトキワトラノオ・ミタケトラノオなどを記録。

調査日：2015年12月12日

調査地：山北町谷ケ YA-7

参加者：佐藤・中山・和田 3名

コース：谷峨～畑沢沿い～リバーサカワゴルフクラブ。

概要：イワヘゴ・マムシヤブソテツなどを記録。

調査日：2015年12月15日

調査地：山北町谷ケ畑沢 YA-7

参加者：伊藤・金子・倉川・佐々木シ・佐藤・長岡・中山・野辺・浜岡・松浦・松岡・和田・支倉千賀子 13名

コース：谷峨旧道のサカワゴルフ入口～畑沢沿い～サカワゴルフ場。

概要：アカフユノハナワラビ・オニイノデ・カヤラン・アズマネザサ・オカメザサなどを記録した。

調査日：2016年1月26日

調査地：湯河原町宮上しとどの窟屋 YU-2, 小田原市根府川 OD-4

参加者：伊藤・金子・近田・長岡・中山・松岡・山本・和田 8名

コース：湯河原椿ラインしとどの窟屋入口バス停～しとどの窟屋, 根府川白糸川。

概要：残雪の中, しとどの窟屋まで往復した。イノデモドキ・ミヤコヤブソテツ・ハコネハナワラビなどを記録。

調査日：2016年2月10日

調査地：南足柄市塚原, 明神岳 MIA-2

参加者：松岡・佐藤・伊藤・中山 4名

コース：足柄林道～明神岳。

概要：春早く尾根には残雪があった。アイグロマツの落枝やヤマグルマを見つけた。

調査日：2016年2月16日

調査地：湯河原町鍛冶屋・吉浜, 幕山 YU-2

参加者：伊藤・金子・佐藤・近田・中山・野辺・日置・松岡・山本・佐々木シ・山崎厚 11名

コース：湯河原町五郎神社～南郷山ハイキングコース～白銀林道～幕山～幕山駐車場。

概要：マツバラシダ・シチトウハナワラビ・リョウ
トウイタチシダ・ヒメイタチシダ・ホソコバカ
ナワラビなど記録。

調査日：2016年3月9日

調査地：秦野市蓑毛 HAT-3

参加者：伊藤・金子・佐々木シ・近田・日置・浜
岡・松岡・中山・山本・和田・金井和子・国沢
則子・田畑節子 13名

コース：蓑毛緑水庵～金目川支流。

概要：生育情報を得て、ワカナシダを3株確認し、
フジオシダ・ツヤナシイノデ・ナガバノイタチ
シダなどを記録。

調査日：2016年3月15日

調査地：湯河原町池峰 YU-1

参加者：女川修・松岡・佐藤・長岡・伊藤・金
子・日置・浜岡・山本・埜村・近田・和田・中
山 13名

コース：池峯橋（藤木川）～池峯ハイキングコース
～もみじの郷～奥の杉林。

概要：イヌガシの赤い花が咲いており、雌花・雄
花を観察した。マムシヤブソテツ・ハガネイワ
ヘゴ・キジノオシダ・ホソコバカナワラビなど
を記録した。

調査日：2016年3月18日

調査地：松田町と山北町の境の大沢 MAT・YA-8,
小田原市沼代 OD-3

参加者：伊藤・松岡・中山・和田 4名

コース：松田町東名脇の大沢，小田原市沼代の杉
林。

概要：コハチジョウシダを確認，小群落を見つ
けた。メヤブソテツ・ヒュウガシダなどを記録。

調査日：2016年4月1日

調査地：南足柄市明神岳 MIA-2，矢倉沢 MIA-1

参加者：松岡・佐藤・中山・伊藤・野辺・和田 6名
コース：足柄林道～明神岳登山道往復。～明神林
道～矢倉沢

概要：ヤマグルマ・ヒメコケシノブ・ナガバミヤ
コヤブソテツ・マムシヤブソテツ・イヌイワ
イタチシダ・シロバナショウジョウバカマなどを
記録。

調査日：2016年4月4日

調査地：山北町平山岸 YA-8，谷ヶ YA-7

参加者：中山・埜村恵美子・松岡 3名

コース：洒水の滝入口～滝沢川往復。谷峨駅前
の田圃。

概要：コガネネコノメ・ナガサキシダ・ムジナオ
オバコ・田圃の植物を記録。

調査日：2016年4月19日

調査地：湯河原町幕山 YU-2

参加者：佐々木シ・佐藤・松岡・中山・野辺・埜
村・支倉千賀子・浜岡・日置・和田

コース：幕山梅林～新崎川往復。

概要：エンシュウカナワラビやオオシダザサなど
のタケ類を記録した。

調査日：2016年4月26日

調査地：湯河原町宮上 YU-1

参加者：女川修・中山・浜岡・松岡 4名

コース：藤木川上流。椿台～城山入口

概要：ナツノハナワラビ・ヒロハコンロンソウ・
ハルトラノオ・ミヤコイヌワラビ・ヒメサジ
ラン・エンシュウカナワラビ・トキワトラノオ
などを記録した。

調査日：2016年5月9日

調査地：山北町谷ヶ・湯触 YA-7

参加者：佐藤・中山・埜村・和田 4名

コース：谷ヶ畑沢沿いの旧道。湯触の田圃。

概要：ケフシグロが見つかったがまだ咲いていな
かった。マメガキの実がなっており，パイカウ
ツギが見事に咲いていた。

調査日：2016年5月19日

調査地：山北町世附～三国峠 YA-1・YA-4

参加者：佐藤・中山・松岡・和田 4名

コース：三国峠～三国山～県道～明神峠

概要：ニイタカスゲ・イトアオスゲ・ヒカゲハリ
スゲ・イセアオスゲ・タガネソウ・イブキヌカ
ボなどのスゲ類やイネ科を記録。法面でコバン
バコナスビを見つけた。

調査日：2016年5月29日

調査地：山北町玄倉 YA-7・YA-6

参加者：中山・和田・中山迪雄 3名

コース：玄倉林道ゲート付近の河原～玄倉林道～
小川谷分岐

概要：ニホンジカの食害で，背の高い植物は見当
たらない。岩場でイワイタチシダ・シシガシラ・
ミヤマイタチシダなど見られ，林道脇でマツブ
サの花が咲いていた。ツクバネガシ・オオツク
バネガシなどを記録した。

箱根やぶこぎ会の2015年9月～2016 年8月の調査活動

(鹿野沙耶香・石原和美)

箱根やぶこぎ会 (FK (79): 974-976) の2015年
9月～2016年8月の活動を報告する。

調査日：2015年9月11日（金）

調査地：箱根町仙石原 HAK-1

参加者：勝山輝男・石原和美・松浦ヤチヨ・野上陽子・川島範子・森洋佑・難波有希子・佐々木あや子

コース：公時神社入り口～金時山～乙女峠～乙女口

概要：イワトラノオ、ハンカイシオガマ、キントキシロヨメナ、タンザワヒゴタイ、エゾヒメクラマゴケ、イワシヤジン、ハコネハナゼキシノウ等38種を採取。

調査日：2015年9月20日（日）

調査地：箱根町畑宿・須雲川 HAK-5

参加者：勝山・山本絢子・松浦・野上・三川節子・黒谷祐介・井上香世子

コース：畑宿発電所～天狗沢～須雲川探勝歩道～須雲川バス停

概要：アイダクグ、アリタソウ、マヤラン、ナチシケシダ、ミヤマタゴボウ、タチクラマゴケ、ナベナ等51種を採取。

調査日：2015年10月3日（土）

調査地：箱根町宮城野 HAK-6

参加者：勝山・井上・黒谷・深町篤子・松浦・三川・鹿野沙耶香

コース：宮城野別荘地東側奥～明神ヶ岳

概要：ヒメジソ、サクラガンピ、オニツルウメモドキ、ハコネナンブスズ、ウメバチソウ、イトハナビテンツキ、コガンピ、ヤマジソ等48種を採取。

調査日：2015年10月9日（金）

調査地：箱根町仙石原・元箱根 HAK-2

参加者：勝山・佐々木・山本・松浦・野上・石原

コース：箱根ビジターセンター～湖尻峠～三国山

概要：ハイヌメリ、ヒメチドメグサ、エンレイソウ、キクバドコロ、カナクギノキ、トラノオシダ、ササガヤ等31種を採取。

調査日：2015年10月23日（金）

調査地：箱根町箱根 HAK-2

参加者：佐々木・山本・松浦・石原

コース：箱根駅伝記念碑前駐車場～畑引山～海の平

概要：ミヤマチドメ、イヌブナ、ヤマゼリ、ダンコウバイ、アイナエ等20種を採取。

調査日：2015年11月7日（土）

調査地：箱根町元箱根 HAK-4

参加者：井上・佐々木・清水和子・三川・藤城節子・松浦・山本

コース：湖尻～芦ノ湖東岸

概要：ヒロハイスワラビ、ツルデンダ、ヤマミズ、カヤラン、クサアジサイ、オクマワラビ、コバムラサキシキブ等38種を採取。

調査日：2015年11月13日（金）

調査地：箱根町湯本 HAK-5

参加者：勝山・佐々木・野上・松浦・石原

コース：入生田～送電線巡視路～阿弥陀寺参道～湯本

概要：イヌマキ、ニッケイ、ハナミョウガ、ムクノキ、キヨスミヒメワラビ、タブノキ、ホシダ、フウトウカズラ、キジョラン、ビワ等27種を採取。

調査日：2016年4月30日（土）

調査地：箱根町宮城野 HAK-6

参加者：勝山・井上・黒谷・深町・佐藤佑樹・高橋祥真・鹿野

コース：宮城野別荘地奥～明神ヶ岳

概要：アズキナシ、ウメガサソウ、ツクバスケ、アズマギク、ミツバコンロンソウ、ヤマトグサ、コイワザクラ、カマツカ等21種を採取。

調査日：2016年5月14日（土）

調査地：箱根町畑宿 HAK-5

参加者：勝山・大西・井上・橋本・山本・清水・深町・佐藤・高田静子・佐須秀人・鹿野

コース：畑宿～弁天山清流公園～玉川学園須雲塾～弁天山山頂手前

概要：イトアオスゲ、エイザンスミレ、ヤマミズイチゴツナギ、ノビル、ネバリノミノツヅリ、ミヤマウコギ等24種を採取。

調査日：2016年5月24日（火）

調査地：箱根町箱根・元箱根 HAK-2

参加者：勝山・佐々木・山本・石原

コース：芦川～芦ノ湖西岸～湖尻

概要：ヤマアゼスゲ、ミヤマシラスゲ、ランヨウアオイ、カラクサイヌワラビ、オオキジノオ、スズムシソウ、ササバギンラン、イチヤクソウ等63種を採取。

調査日：2016年5月28日（土）

調査地：箱根町元箱根・畑宿 HAK-5（図1）

参加者：勝山・大西・井上・佐々木・山本・藤城・三川・鹿野

コース：お玉ヶ池～下二子山（図1）

概要：ヤマヌカボ、ベニドウダン、コウヤコケシノブ、オノエラン、ホソバコケシノブ、ヒメスギラン、バイカオウレン、アカバナヒメイワカガミ、シロバナフウリンツツジ、ムラサキツリガネツツジ、アゼムシロ等38種を採取。

目次

田村 淳：ラン2種が健在ーフジチドリとノビネチドリー.....	979
勝山輝男：イネ科ニクキビモドキ属の不明植物.....	980
大西 亘：ホワイトレースソウ（セリ科）の逸出.....	981
勝山輝男：採集できなかったラン科植物3種の記録.....	982
田中徳久：『神植誌01』掲載分類群の分布情報の記述.....	983
田中徳久：『神植誌01』掲載分類群の科毎の組成.....	985
中山博子：西湘シダ勉強会2015年9月～2016年5月の活動記録.....	986
鹿野沙耶香・石原和美：箱根やぶこぎ会の2015年9月～2016年8月の調査活動.....	989
編集後記.....	990

調査日：2016年6月27日（月）

調査地：箱根町元箱根 HAK-4

参加者：勝山・山本・氏江信雄，藤城

コース：駒ヶ岳～山中腹～防ヶ沢～箱根園

概要：ヒコサンヒメシャラ，ウスユキムグラ，オオイタヤメイゲツ，オオカモメヅル，オオバイケイソウ，ハコネグミ，マツブサ等25種を採取。

調査日：2016年7月23日（土）

調査地：箱根町宮城野 HAK-6

参加者：勝山・井上・鹿野

コース：宮城野～明星ヶ岳～明神ヶ岳

概要：オオハルタデ，サジガンクビソウ，チゴユリ，クモキリソウ，イワギボウシ，ナガバノコウヤボウキ，ベニシユスラン等35種を採取。

調査日：2016年8月6日（土）

調査地：箱根町宮城野・強羅・仙石原 HAK-6

参加者：井上・清水・鹿野

コース：宮城野温泉会館～早川沿い～大涌沢～強羅～宮城野

概要：マルバフジバカマ，ヤナギタデ，オシヤクジデンド等14種を採取。



図1. 下二子山の調査の様子（箱根町2016.5.28 勝山輝男撮影）。

調査日：2016年8月16日（火）

調査地：箱根町元箱根 HAK-2

参加者：勝山・佐々木・石原

コース：湖尻～立石～三国山山頂

概要：ジンバイソウ，スズダケ，タツノヒゲ，コムカグサ，テンニンソウ，ケトダシバ，リョウメンシダ等22種を採取。

※箱根地域では，自然公園法に基づく環境省の採集許可を得て採集を実施しています（調査会会員であっても許可のない者の採集はできません）。

編集後記

前号で決意を表明したように，今年は何とか3号（少なくとも2号）は発行しようと，早くも2号目をお届けします（2号なら早くもノルマ達成?!）。ちょっと記事が少なく，苦勞した部分もありましたが，一部のレッドデータ植物のように標本の採集が難しい場合，忘れない（忘れられない）ように記事にすることも，一つの手かもしれません。記事にしないまでも，事務局までご一報下されば，何とか記録に残す方法を模索したいと思います。

さて，次号は1月末頃には発行したいと考えています。調査最終年度になりますが，今年度の成果，12月末頃までにお寄せ下さい。原稿がないと発行できませんので，よろしく願います。（田中徳久）

神奈川県植物誌調査会

〒250-0031 小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館内

TEL 0465-21-1515・FAX 0465-23-8846

e-mail kana-syoku@flora-kanagawa2.sakura.ne.jp

郵便振替 00230-5-10195

加入者名 神奈川県植物誌調査会

年会費 2,000 円